

## コラム3 木の文化の継承と国有林野の役割

太古の昔から現代に至るまで日本人は様々なかたちで木と関わり、我が国には古くから適材適所に木材を積極的に活用する「木の文化」が育まれてきました。こうした経緯により、歴史的に重要な木造建造物や各地の祭礼行事、伝統工芸等に木材は不可欠なものとなっています。

国有林野事業では、木の文化を継承していくため、民有林からは供給が困難な樹種や特殊な寸法（大径・長尺材等）の木材等の供給に取り組んでいます。これまで伊勢神宮の式年遷宮御用材への木曽ヒノキの供給を始め、近年では東日本大震災により全壊した神社の再建へのヒバの供給、皇位継承の際に建立される大嘗宮<sup>だいじょうきつう</sup>建立へのヤチダモ、スギ、カラマツの供給等に取り組んでいます。

### 木の文化を支える森づくりの取組

伝統文化の継承に必要な森林の育成を国民参加の下に行っていくため、平成14年度から「木の文化を支える森づくり」を開始しました。これまで、地域の関係者等の要望を踏まえながら、長野県諏訪地方の伝統行事である御柱大祭<sup>おんぼしらたいまい</sup>の用材を確保するための「御柱の森」や、秋田県大館地方の国の伝統的工芸品である大館曲げわっぱの材料となる天然秋田スギにかわる高齢級人工林スギを守り育てるための「曲げわっぱの森」等で植栽やつる切などの取組を進めてきました。令和2年度末現在、木の文化を支える森は全国で24か所を設定しています。

表一 全国の木の文化を支える森（以下ホームページアドレス）



[https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu\\_rinya/kokumin\\_mori/katuyo/kinobunka\\_kojimori/kibunka.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/kokumin_mori/katuyo/kinobunka_kojimori/kibunka.html)

森林管理局	箇所数	面積(ha)	代表的な木の文化を支える森
北海道森林管理局	2	9	イウォンネシリ（北海道）、檜山古事の森（北海道）
東北森林管理局	5	35	曲げわっぱの森（秋田）、平泉古事の森（岩手）
関東森林管理局	1	7	鬼太鼓の森（新潟）
中部森林管理局	8	915	御柱の森（長野）、裏木曾古事の森（岐阜）
近畿中国森林管理局	4	5	京都古事の森（京都）、高野山古事の森（和歌山）
四国森林管理局	1	661	祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森（徳島）
九州森林管理局	3	5	木うその森（大分）、首里城古事の森（沖縄）

「木の文化を支える森」に設定した箇所では、地元自治体等からなる協議会が主催する植樹祭を始め、協議会会員による下刈り作業等が継続的に行われています。



- ・岩手県奥州市(おうしゅうし) 月山(つきやま)国有林
- ・平泉古事の森で児童等による植樹の様子(平成21年)

また、国有林野事業では、木材以外の木質資材の供給等にも取り組んでいます。徳島県三好市の重要な観光資源である「祖谷のかずら橋」は架け替え資材としてシラクチカズラ(サルナシ)の蔓を使用していますが、近隣で採取できる良質な資材は年々減少しており、かつ、植栽した苗木が利用できるまでには約20年から30年かかり資材の確保が難しい状況にあるため、徳島森林管理署では平成20年に「祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森」を設定し、シラクチカズラの苗木を栽培して植栽試験を実施してきました。さらに、育苗・育成技術の向上等のために、平成30年に三好市、香川大学、同署の三者による「シラクチカズラの資源確保と活用を推進するための連携協力に関する協定」を締結し、シラクチカズラを効率よく安定的に供給できるよう増殖活動に取り組んでいます。これにより、地域にとって重要な「祖谷のかずら橋」の架け替え資材が確保され、地域の伝統文化が伝承されることが期待されます。



- ・徳島県三好市(みよし)
- ・(左) 地元小中学生による苗木づくりの様子
- ・(右) 「祖谷(いよ)のかずら橋」の渡り初め式の様子(平成27年)